

京子保

俳諧四季の岸

回文俳諧

並
古人墨蹟

特別
~5
6697



孫のちの詩を孫のよきもの
ら、一かたはらりわのれ家
連のよあまのつらなるは
孫のよあまのつらなるは
七十のよあまのつらなるは
三十のよあまのつらなるは

新刊長祿本の二十七次後及
み物軽きうつ水縁上
あきしうせいふ舌に橋爪
ましきるぬし見えあしとせし
くねしあしうたふせし
とれしあしあしあしあしあし

安らねと親耳

凡そ我ゆきし

男松

いつれのおとこあしあしあし
さしあしあしあしあし
あしあしあしあしあし
あしあしあしあしあし

東花の穂金きしるる
津者約也



近雪う曲無法迎ふ有
日月の行通見おに一氣
めきしおあしあつとよ
白峯おして終詠譜の
道に入らるる味あつた

よあ〜 礎乃海枯法華を
流り小法師の筆さき〜
通文を吟し世よに強めむ
多歳乃弓勢に中ちうせそ
百箭はた射りあらじ事

鳥朝乃孫こふよひ〜
小町ハ一生よう通文を吟
弓猿さる目めあ〜 孫こ也
燭吟に臥ふ百ひと汗あつ〜 結むて
自ら通文堂下号ス幸ハ甚ハ友ト杜ノの

夕任安きるる友若年
四季の序

迴文堂

琴峯



迴文百韻獨吟

琴峯

さふ多はまほふあふふ末代さ
まふり紀日よ二正う船牛
蝶乃露伴命とや一今あふて
と朝の祝くくざんざん酒
情や長お場呼そうて也あ子
沖物も入道とらまひ奏 傳
能キ列ん氣程よまは晴月秋
芭蕉色風うかあうやせえ

推乃木乃糸ウイ楚ユヘ垢ユ難乃仲乃石
むすふ此神ノ喉ウ云かのふウ混
格氣いひきんそウ沙ね見負を理
子張惜一之ほく包一河配
ぞ一拵く毛乃さうも又テなうと
物扱ケ怒ウ弗子ス角ホ膝扱ケぬと
此バカウ也丹波乃妻右と妙ウ下馬
亦様やう中一叶ウ山出と

日言こん所ウ穂ウ懐ウうウらウ 穂
りみぢウまウるウ君ウんウ切ウれウ 糸ウ乃ウと
中ウ紀ウはウくウとウ乃ウ浮ウ母ウ産ウハウ産ウ乃ウ
拘乃音ウオウツウ通ウ力ウ乃ウ念
取ウ各ウ乃ウ湯ウ乃ウ杖ウ乃ウ湯ウ底ウ下ウなく
以ウ干ウ杖ウひウりウ 擢ウケウ 合ウ 平ウシ
翠ウ乃ウ麓ウハウ遠ウりウぬウけウらウ 掃ウ 庭ウ
下ウもウ乃ウ小ウ柳ウ之ウ彼ウ方ウ此ウ方ウ

一トク^{トク}一^ヨ最^ヨ倚^リと^ク際^ノ一^ヨ懸^ク徳^ト
ほごくと^ム鑑^シ一^ム免^ハ其^ハハ^ク同^ホ
源^ハ氏^ノ辨^シ鄭^ナを^リと^ム嫁^ス侍^ハ
人^ノ目^ヲ悪^クと^シま^シる^マ支^ナり^トム^シ
涖^シ一^シ端^ヲと^シ孫^ガ学^ガ感^セを^シた^スる^マす
陳^ノ子^ノ如^ク、^カ弟^ノ如^ク、^カ信^ニ一^カ失^セ
冬^ニと^シ冬^ニは^シめ^テ一^カた^メつ^ム勇^トと^シ勇^ト
射^ヲ習^フる^ル所^ノ長^クと^シぬ^ル　　ト^クラ^シ　　筆^ヲ
上五

健^カキ^ハ志^ヲヲ^カら^カつ^ハハ^ノ中^ニ　　正
牙^ヲ振^ルる^ル一^カと^シ　　厭^ハ　　疑^ハ
月^ノハ^ノあ^ッて^ハ片^ハを^シて^ハ驚^クる^ル志^ヲと^シて^ハ近^ク
馬^ノ乃^チ子^ノに^シて^ハ一^カ麻^ヲ月^ノと^シて^ハ疑^ハ
編^ハ作^ルる^ル警^ヲ告^スは^シる^ル系^ヲ入^ルに^シて^ハ疑^ハ
驚^クる^ル同^ノ利^キ　　開^キ　　月^ノと^シて^ハ疑^ハ
徒^ラ然^レれ^ハ一^カ物^ヲ雖^モも^シ樂^シと^シて^ハ疑^ハ
根^ヲ　　一^カと^シて^ハ疑^ハ
上六

とく取成るちと突え回しと
捕さうは世 法さ夏名 志
先多おし神愛化ト 信回素
けまいぐお取さ里と 笑合
極用さ細工作意さ 奇癖
意度直体代意いと 宿月
仁廟と何 驚た何と一文字
過一 加けり 水風 歌色

三

仁^レグ^ダタ^ヒ 法^レ意^ト志^ク宛^ト掃^ル平^ニ天^ハ
目^レ比^ト意^ハは^レ意^ハ及^ルる^ルさ^ハい
り^レ乃^ト意^ト子^ト相^ツお^ツ奇^ハ意^ハる^ル也
罪^ヲ能^ク一^ト也^ト年^ニ一^ト有^ル也 満
同^カ教^ヲ法^ヲ悟^ル相^レむ^ルは^レ尾^ノ跡^カく^セ
い^レさ^レむ^ル子^トの^ト意^ハい^レさ^レむ^ルせん^ハい
末^ノわ^リと^レ家^ノ中^ニ乃^レ用^ルる^ル意^ハ
某^ト本^トと^レ宜^シ一^ト 白^シ蓮^ヲ 咲

須磨を去りてたがひよ我仲給
しゆくあり橋と橋しく返る
おれ抱ひと膚ハダ柔くはまろ魁まろ成
起結々久し仔細朝夕
由さりあひ清衣され無福有福
何縮ひく免火火可ま利り屋やぐ
むく起川コキ侯布乃多た月つき川が以
枯系秋あき年とし 氣き先ま手て表あの

三程

作石と白志黒し同士軍
讀よ麻あ少す とい後し舟んよ
限か次つよつ落お夏な結むりと魁か好のの
從よ者し 死し 烈れ乃の 抱かりせ
日ひ内ののまよし江え戸のかり門の二に里り高か島しまあ
位い成な若わ 繼つ 柳やなぎ 子こ乃の 勢せいい
云い僕わうの那な 繼つ母はの食 凹くぼむ
學が乃の 子こ 程ほど 子こ 疆しく凌り

管をよ非言此むむ除かま
 梨子をわのり実みけり流し
 丸く産り舟次見盡つ風車
 然さ鴨と来し四季と親愛
 吉野流とけり元遠條のよ
 いとあを糸んと表乃漆 辰
 珠りま 肥乃頃も并たれと
 照り暉くハ 宿をかりて

各

海次むさく海よ海に和らふ
 来勢又事一隊男あけし
 糸千を目乃女夫志海りく
 縁色乃水井 泉好べよ
 云意此松や門番くは矢大臣
 潤りくをら民節晴く 墨
 武士と武士忠信仕女新を新
 仕立目出度し

和歌乃依之候と色男水ニ乃川カ
 出乃下一身ニ下乃神ニ
 管月此女一難と朝暮戸
 紅雲乃亦秋名芙蓉乃
 櫻乃并盤キ乃除此半乃追多
 田余氣水一いう如三乃乃たん
 切しく一候一候一又一意一意一ハハ壓キと
 深キたり一一深一一一志一深一一一蒙キ求キ

障乃弱世界一いう世馬士乃年
 う一や一致一一一一一一一一一
 求一一一一一一一一一一一一一
 和起一一一一一一一一一一一一一

花重錦袋帳 倍三十點

抄紙うき世

洋装帳 倍廿五點

り方意子

揚彩 二

綴作^{マス}り 和歌の伝

三光 二

草末子糸 若野帳

車輪玉 三

編 袖の書抄 梨子の歌

領下の玉ひしり玉掛しるもの

集め純備のきり弄しるもの

り道り中よころろよ但野

きらひ

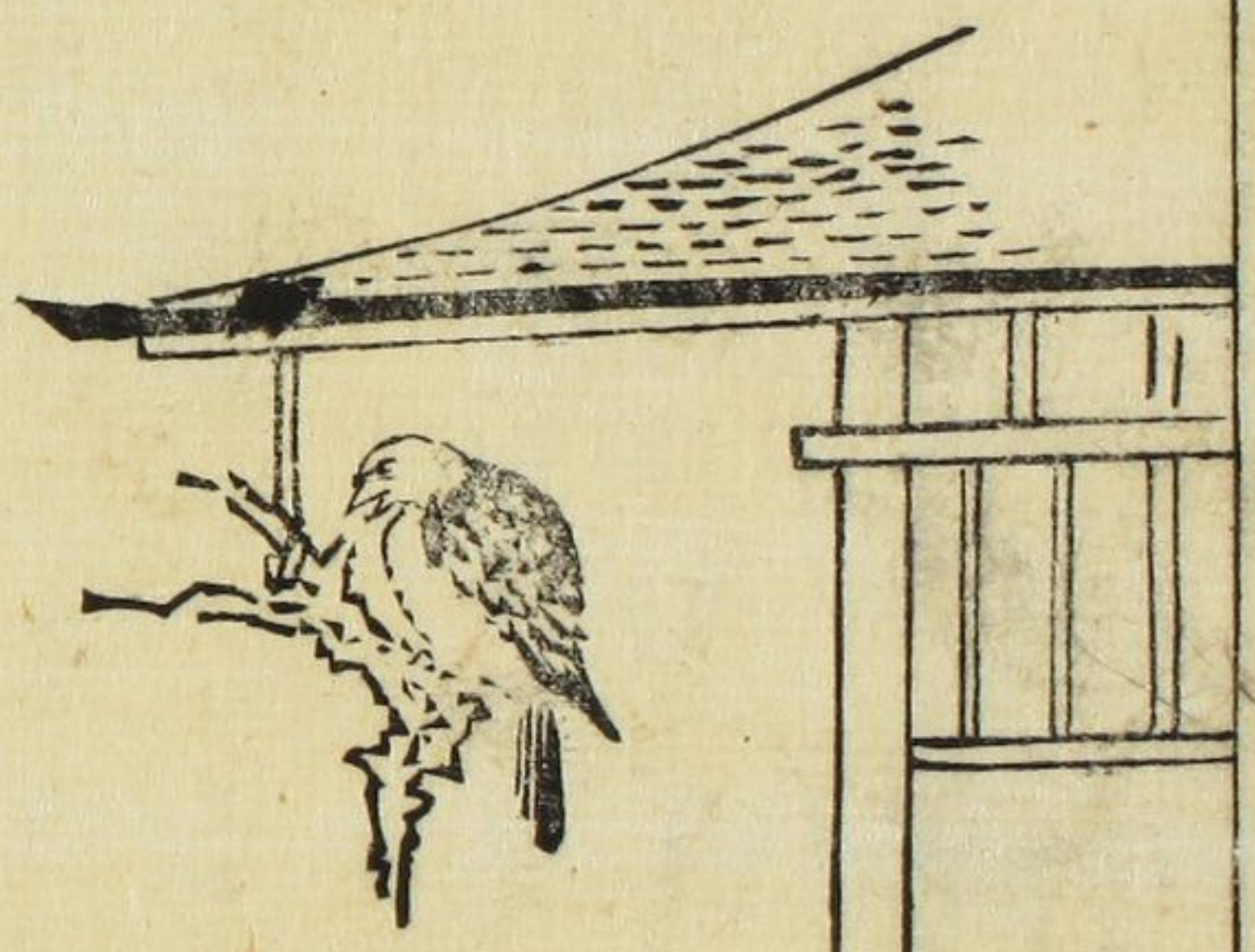
威風凛々

音中し末芽

ふかきり虫



將軍涼殿之



回文歌仙獨吟

琴峰

鷺乃飛イハの如軒 涼くた
 莖此片 彼乃凸乃南
 村くく 涼ツ月交 撰くん
 馬ホ立所 と音フたのまむ
 菱乃 芝底さむさしくその下が不同
 席くの素 扱はくんの終
 神木成傳り 尚 蛭うを 梵字
 ねごく種ハね子うざとく

三十一
意乃去之^カ人^ヤ之^カ牧^カ牝^カ乃^カ去
漸^カ踏^カ及^カ戸^カ以^カ爲^カ一^カ 每^カ使^カ
其^カ乃^カ加^カ持^カ而^カ去^カ之^カ以^カ又^カ志^カ其^カ此^カ松
手^カわ^カ一^カと^カ一^カ南^カ一^カ
所^カ乃^カ物^カ又^カ垣^カ加^カ種^カう^カ海^カ
池^カ中^カ仰^カ信^カ定^カ友^カと^カ漏^カ一^カ也^カ
台^カ切^カう^カく^カ片^カ此^カ以^カ誰^カ必^カ得^カ定^カ
罪^カ多^カ忘^カら^カ於^カ此^カ 碎^カ瀝^カ多^カ水^カ

名

何^カ所^カ多^カ多^カ之^カ名^カ也^カ身^カと^カ名^カを^カ持^カテ^カ洗
辱^カ乃^カ名^カ跡^カと^カあり^カ子^カ名^カ紫^カリ^カ勉
蝶^カ乃^カ群^カと^カ之^カれ^カ洗^カ乃^カれ^カ小^カ紫^カと^カ紫
撫^カう^カつ^カ一^カ仰^カ園^カ仕^カ組^カ和^カう^カ奴
署^カ乃^カ下^カ結^カ使^カ色^カ如^カく^カ割^カつ^カ所^カ入^カ官
淵^カ白^カと^カ之^カ乃^カ實^カ英^カ乃^カ昂^カ一^カ 星
好^カク^カ罪^カ乃^カ神^カと^カ燈^カ也^カハ^カ吞^カ使^カ之^カ凡
精^カ比^カ戸^カ一^カ二^カ度^カ紫^カ也^カ 窮^カ

濁りのまじりて
 實たる後舟と
 結ひてい
 禪中よきわらぬ
 一

琴峰



圓天歌一真

ありとあり

そと
かき

たん

ま

た

あ

ま

い
ま
か

琴峰敬求

自画





洵文書

理成好師乃丹誠を以

翰血乃白うるし以各

神作代り物中

神尊にぐ之神也



か—まうまう、（？） （？）

しせしちの—こりま

あり

廻文堂 琴峯

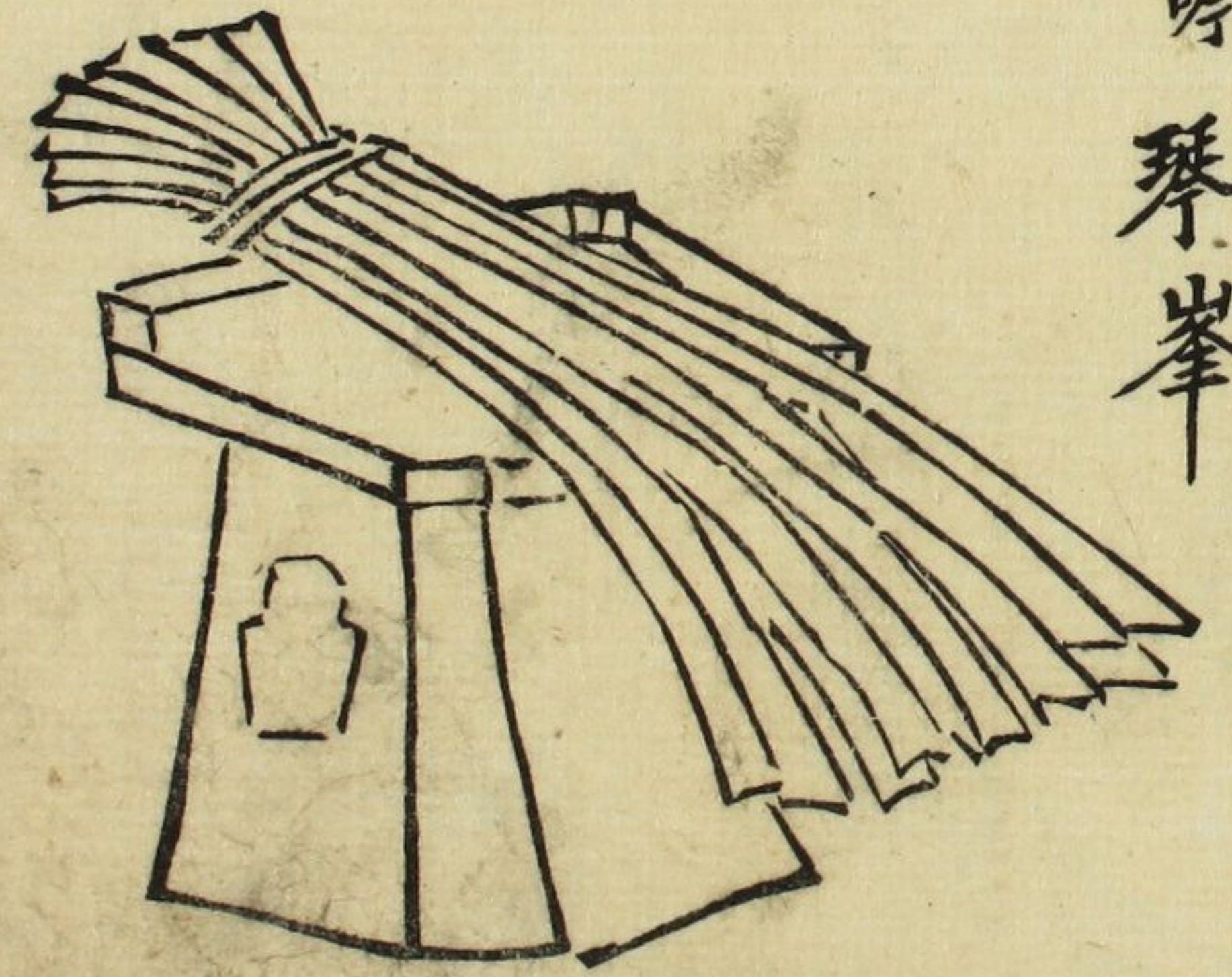
田文全句 獨吟 琴峯

うわ髪

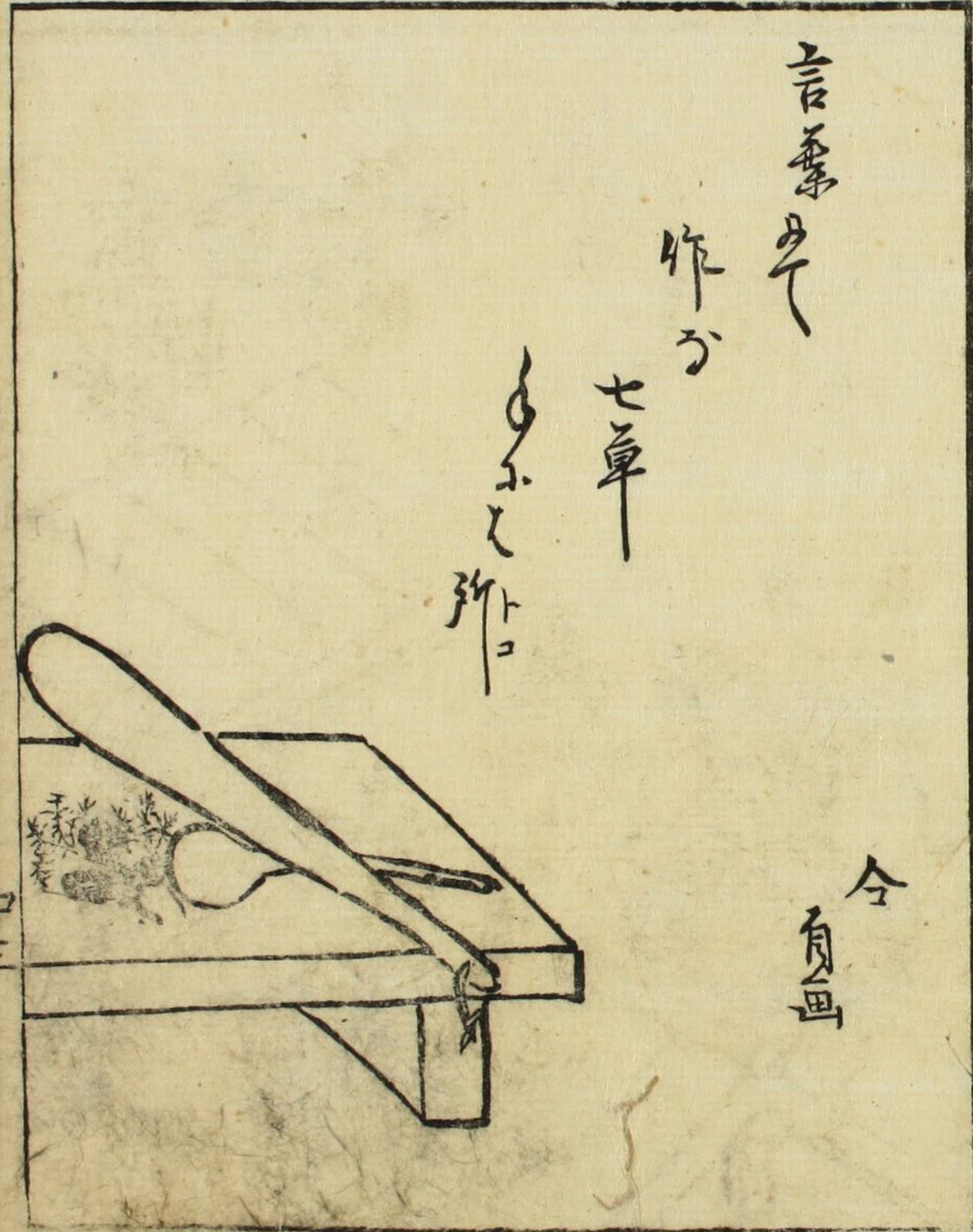
草色

本毛

草の乾



狩野涼母



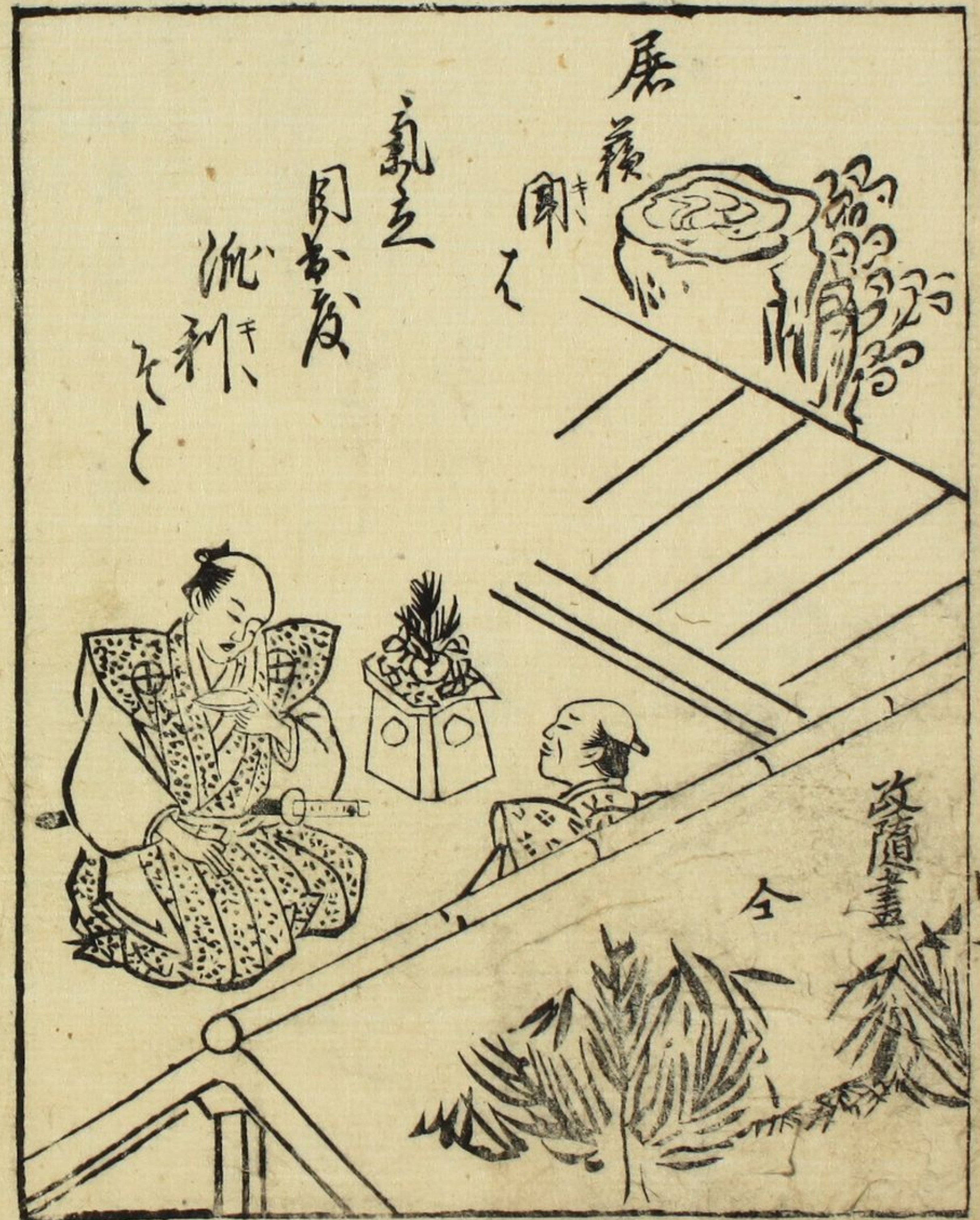
言葉
か

作
か

七
草

ふ
し
所
ト
コ

今
負
画



居
後

氣
立

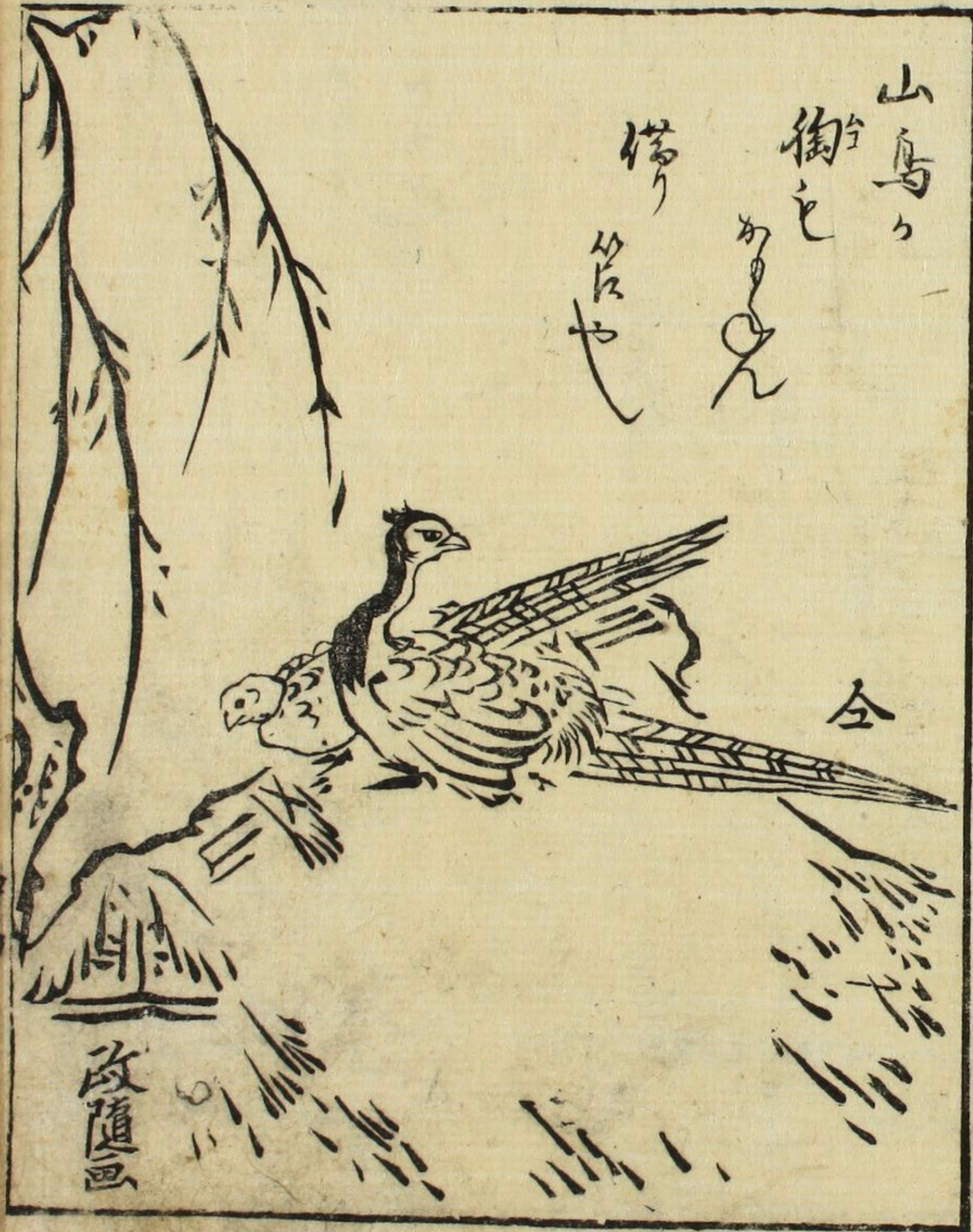
目
か
度

流
利
か

そ
と

文
隨
畫

今



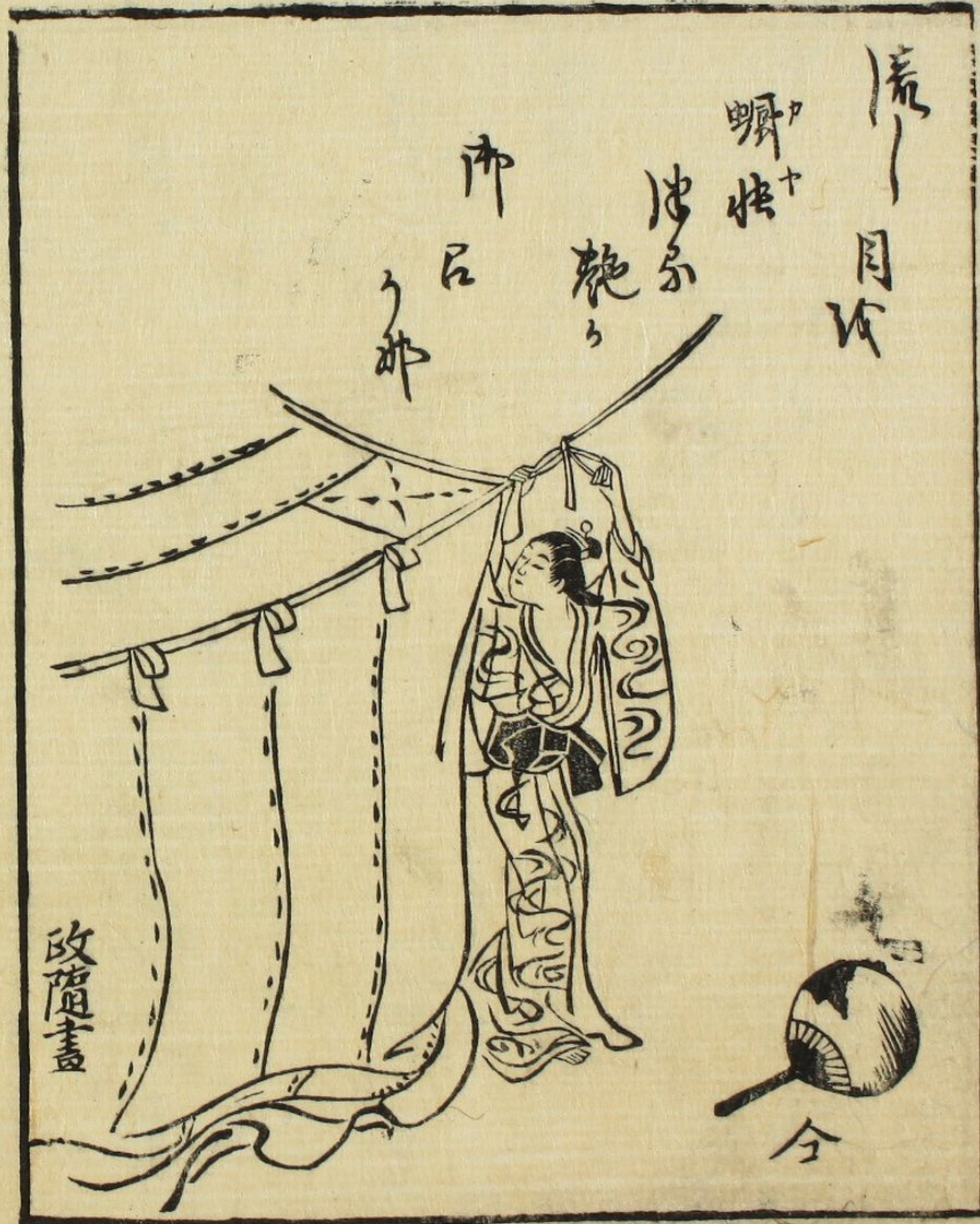
















有舟也

川如川

樓

船

舟

今

政隨畫

吉野丸

中三



陽乃三子氏

原中

補

政隨畫

中三









中氏一

不思及

柿流

仕業

丸



受河去

全



多財集

如色一

世作

悪

丸

全 政道画

全





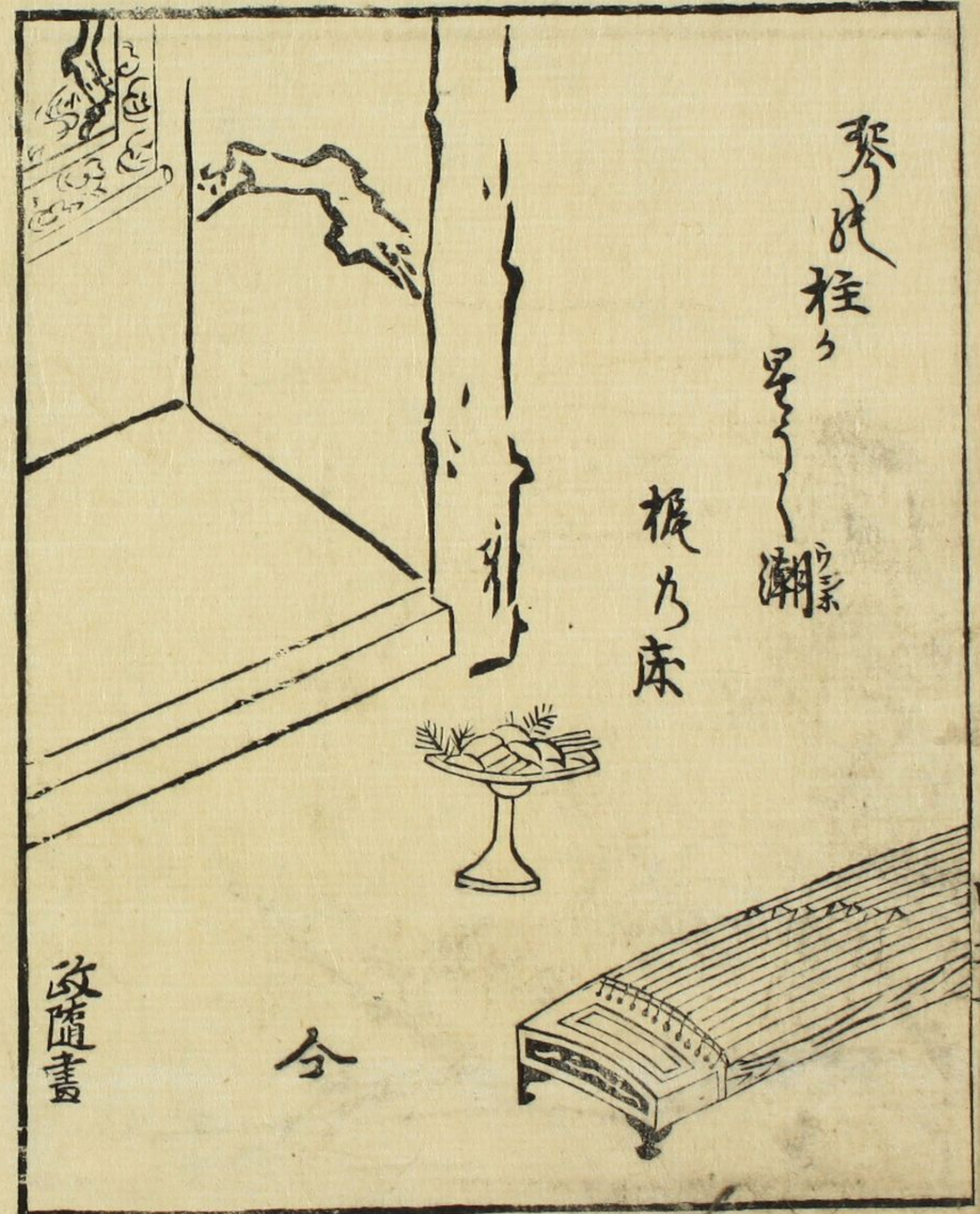




中三









満月

若也

片之
八
若也

改隨画



若也

中

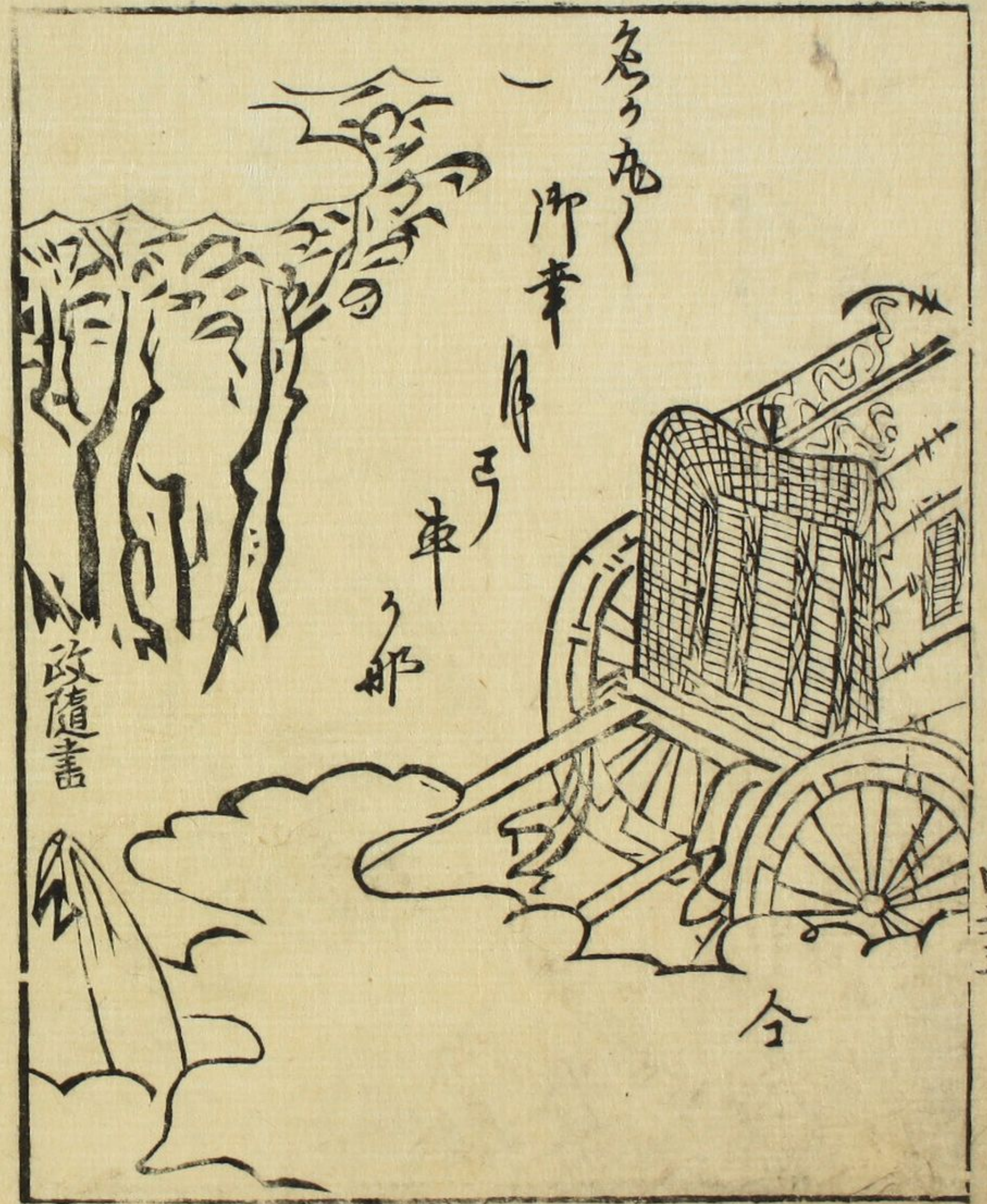
世依
如

野菊
摘

改隨畫

今











回文貝盡

獨吟

琴峯

日貝

日成千度

そりや

抄録と

常陸常

政隨畫

下



政隨畫

今

る

掃

無

室

字

昭













田植那

那貝瓜

生凡

中

醉貝

改隨画

下七



忘貝

忘

忘

牡丹

忘

今

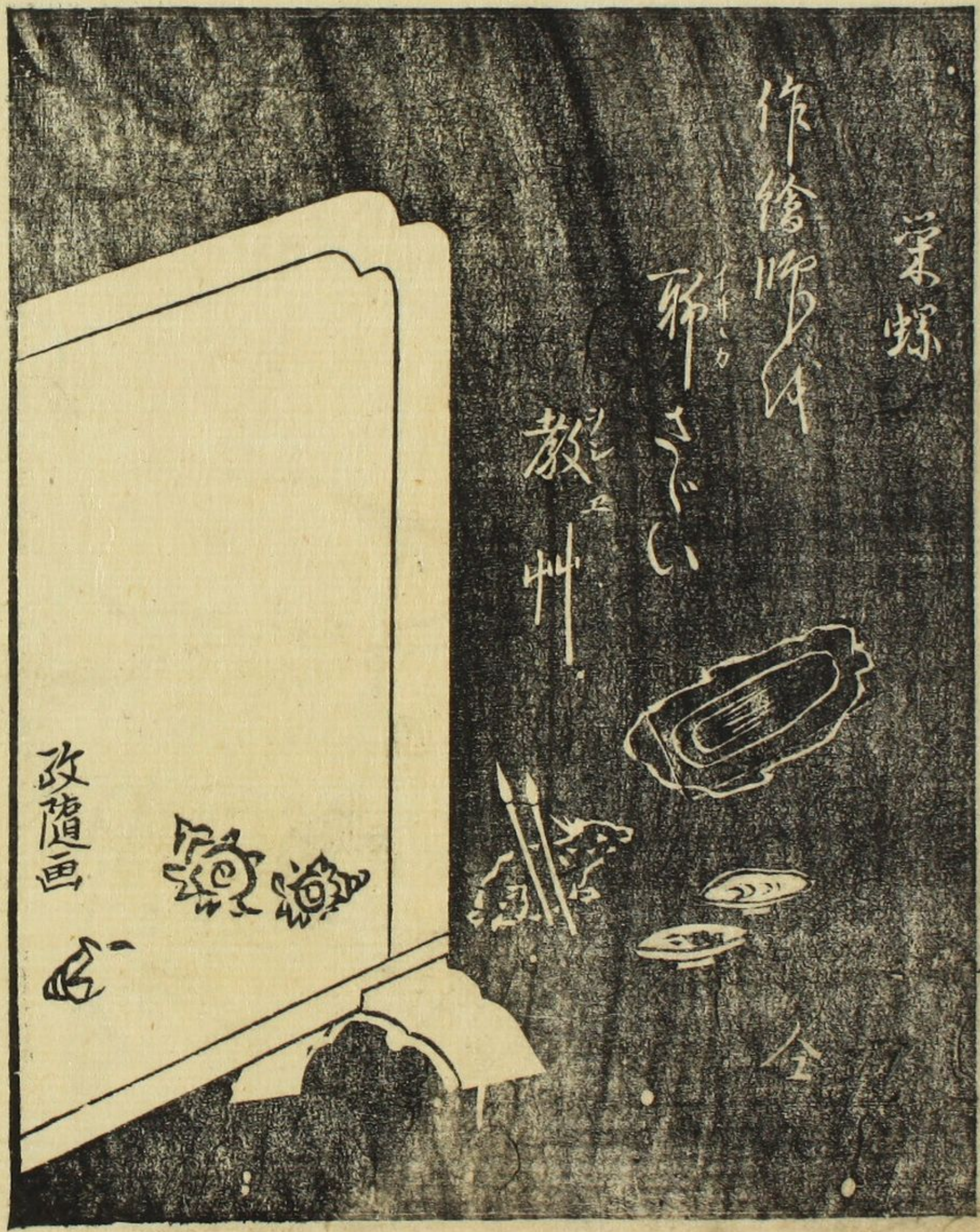
改隨畫

下六









やういふまじれと染まらふの
 流しはせんそ古人の墨跡
 万分の一を以て流し
 といふは撰集を以て
 といふはあらはし約ら

冬之筆



宗匠古筆

宗祇
 貞徳
 貞室
 立圃
 季吟

芭蕉
 其角
 嵐雪
 一晶



下十三

宗正寺
宗正寺丞
宗正寺主簿

宗正寺主簿

宗正寺
宗正寺丞
宗正寺主簿

宗正寺
宗正寺丞
宗正寺主簿

しあしとから

あまのまはたけ

なまこ茶うんや

せ

のころふと



ふくまよと

鱒の海山貞室





1419

春

春
風
吹
花
散

又



一
部
也

年
行
七
九

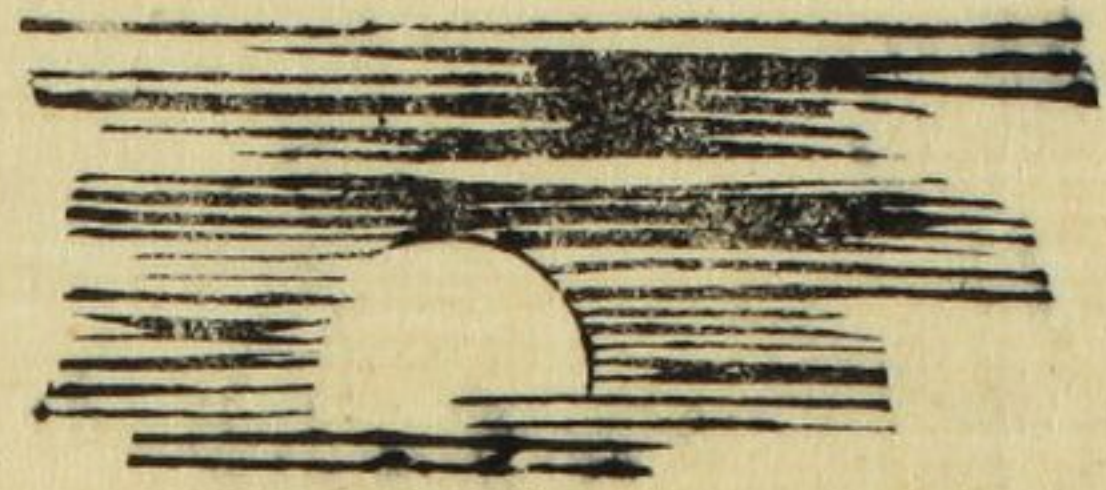
竹
石
花
散

立
園

1419



心通
新法所
巧の



月
少
梅

之
家
子
一
の

い
る
長
月
ら
お
よ
花
花



花
の
あ
ら
ま
ら
ら
ら



あ
ら
ま
ら
ら

ま

物ふさうさうさうさうさうさう
正風さうさう

人乃氣花ゆりの付くさなる柳うね

燗

法をうさうさうさうさうさう
法をうさうさうさうさう
法をうさうさうさうさう
法をうさうさうさうさう
法をうさうさうさうさう

松花
千律
雪川
尾尺

白き海と處
運流の涌

法をうさうさうさうさうさう

法眼

不角

花

山ハ人花見人多し有ぬ處

刻々庵

吟市

雲二重一重也折く死乃

山賀角
吉田氏

花乃王皇居さうあん所乃筒免覺
中山氏

琴峯子乃回文乃粹と
文乃獨歩と感乃終と

さやし名も琴峰枝木花を欣
女衛義

書初乃乃大星乃我初乃乃

持歸

書初乃乃大星乃我初乃乃
百門

神田乃沈るれいさう
上野乃其終と

群ははしや山橋を公水車 下七
 敬雨
 梅川
 文綸
 樓雲
 川序

全

女中一危あつくと上野の妙人作 川越坂戸
 春峰
 市好
 風笛
 松花

幕いりか雲の法はさうと生山 素川
 花扇
 翠香
 拘珠 温倫
 琴龍
 東水
 風娥
 亀石

瓢箪と抑 子あかりの山
 蟬娟 名 尻質花 モ 濯液
 風

見花酌酒望海垂釣馬今日也春雨 静里軒
 遅々厭雨不出集二三子來終日語 風二
 まるあうり 養佐
 のうさ 養佐

下七

煙をさりの侍をまきさりの底乃庵 吟荷

友

友亦立目小くをきく水乃香 不角

法眼

郭公

千々亭

うづもや葉乃清とある郭公 芭笠
時多くくはと湯前江のさうの 班扇
橋後子清や三テロ半付多 白李
歌りや如入給乃片も 文車
たのしき清くをきく郭公 来什

りよ本中しを考何去序乃清也
山崎平し初を初 和極
な病もあつては清くをきく 琴玉
ほもたは今も清くをきく 慶賀
夜かきく遠るは清くをきく 扇女
葉乃清老乃るねけりや清く 扇風

全

一葉もと都乃人よ清くをきく 千志
田原也今も清くをきく 一葉
家のまを人よ清くをきく 伴舟
ほゆや板も清くをきく 剛中
又も清くをきく 霞缸

郭公のよきおのりなる 林治

全

春峰
川蔵
松
乙
全
郭公は痛くなり 東阿

全

郭公は痛くなり 東阿
批
東阿

曹蒲

兆賀
曹蒲



前書回文

仕場也 孝行

回文

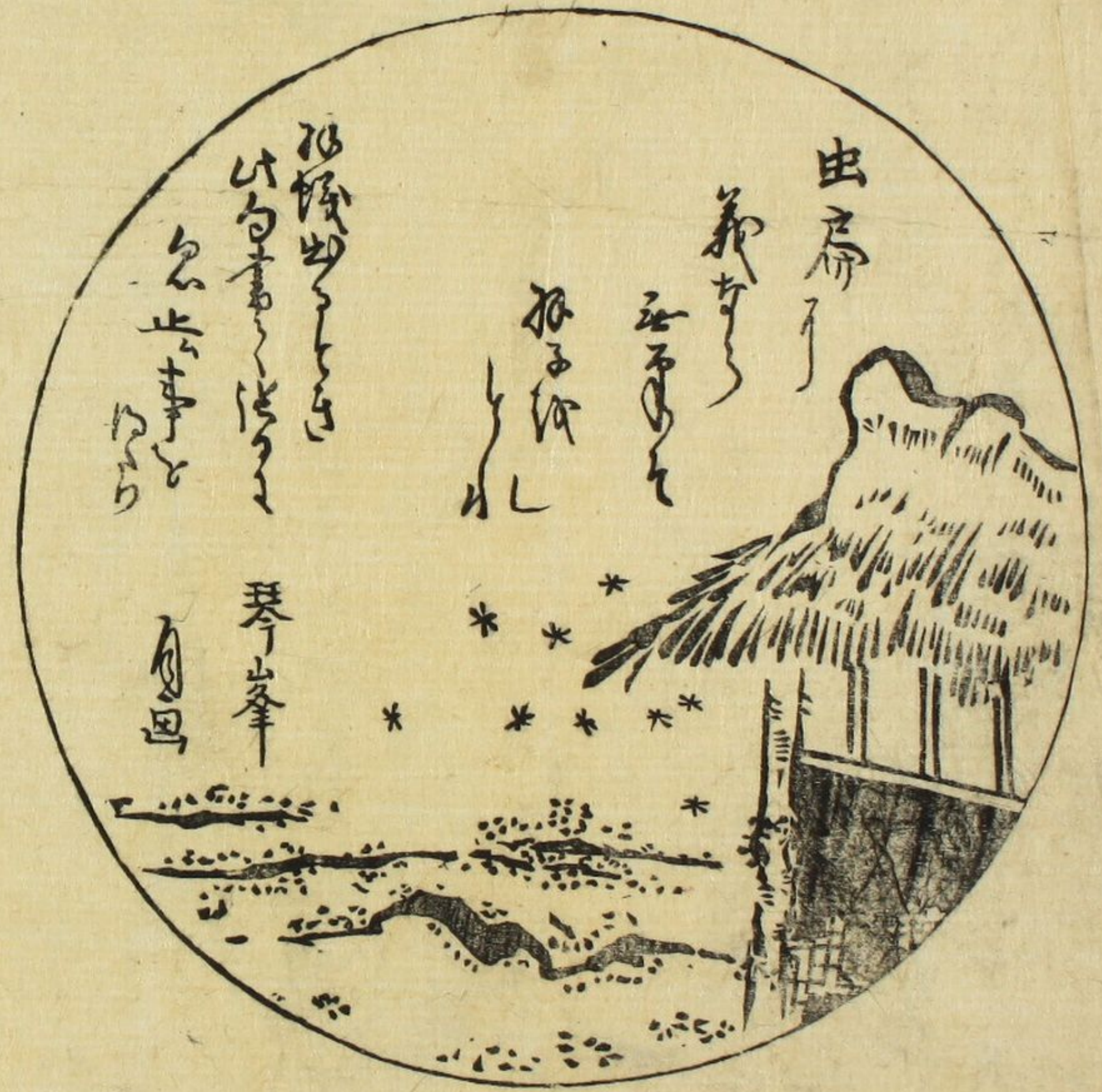
七胡又也

飲メヤ 萬蒲

白ノ酒

吉田 賀角





時序より萬民これと白牡丹 撰者母
 けりていふ美徳く極む四神 行里氏
 鶴をり火や定常も通はぬの友 中村氏女
 芦舟 阿

涼

涼 コシテ
 全 全
 尺尺

赤水や去乃る色は夕す 貴白
 先手かやや河東出たり麻原 川越氏
 涼 涼
 春峰 春峰
 若屋 若屋
 十星 十星
 珠井 珠井

函林堂

月色涼一宿古動如運力扇 賀角

秋 銀河似白布

月細一簇まつて天乃川 不角

法眼

秋雜

わさねの吹風珍乃菊之柳 中村氏女 芦舟

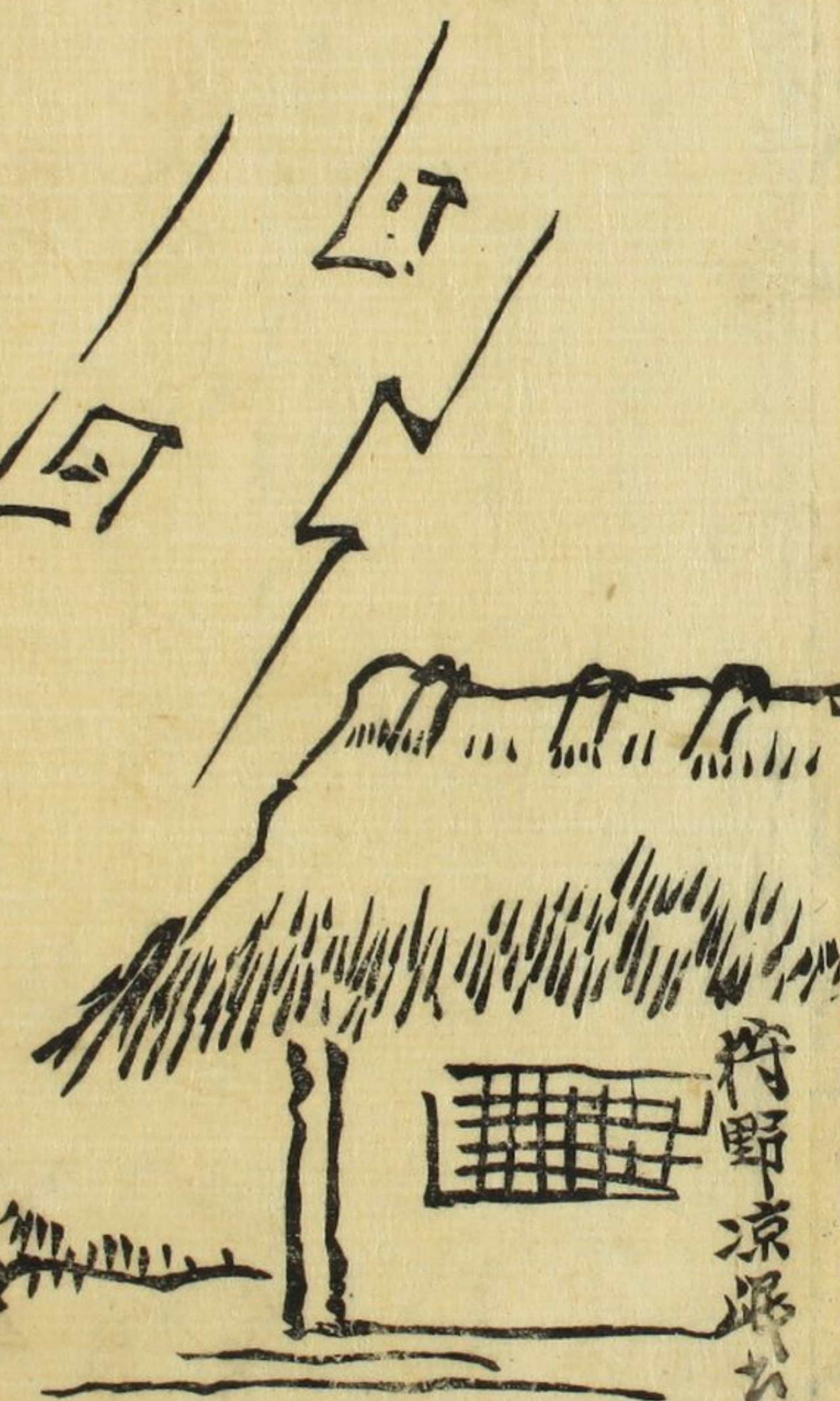
菊之時吹はる方り香も惜 賀角

鸞鳩 雉 鷺 鶴 鷹 鴨 鴛鴦

初下池ある人乃待よる所 武舉

雁今やこころ結し 春峰

將野涼瀑



黄會

稲妻や夕部乃恨 光禰亭 松花

揚彩 別名 峰

下正



兼

法歌

雙と枝の口よめんら黄菊不角
葉吹り牡丹花今りく隣う菊紀逸

月

吟市

魚がしら月一海と勢今所

全

竹世
两岷

名月やそまぬ人占なりらる
名月とわつ子歌乃漁り耶

全

いっとうのく中神志と本月余仙鶴
焼地や祝きとみやあかしの月南佐
家よあわりの海草のけく水乃月糸岡

月持たれ州志とく一とせまは雲乃虎玉龍

冬

法眼

不角

定家より中御初は園乃鳥雲不
みよとやむあ〜に枝よ所由筆東隣
清乃春日増〜とを此鳥雲不賀朝
冬とや〜梅廿五移〜にがむ凡里礎

千鳥

杉のく海鳥とるく遠を川書東風

全

川越

孟津

帆杉乃陣所何よちせりら
筒とくしと願う身く夕ちり雪桂

雪
初雪やしむる御

雪
吟市

雪
片よりゆく松風をま〜東乃雪
不角息 友柳軒
不局

全
酒まじりて常〜
吉田氏
賀角
自城

全
初雪〜人待影の酒屋に
文綸
政隨

水仙
水仙や〜
耕雲舎
茶秋

色
吉野の〜
茶笠

梅
梅野小春〜
未白
珠ま〜
竹世

定やわらまろ〜
都乃乃人〜
新より〜
ら〜

小春世五 北野〜
三平白芳春〜
京百葉泉
た〜
札乃上〜
日枝乃新 富鈴

友
も〜
水粽
全
半〜
相公轉入〜
京 困翠

秋

所_京 深_京 湖_京 其_京 奉_京 其_京 奉_京

湖_全 富_全 鈴_全 翠_全 園_全

大尾 琴峰

寒梅之水くらあは押迫——白峯

血文未

白后ニカフニテノテ 之 新 之 巻 之 扉 之 卷

同 お に も し き 一 し 赤 い 心

晴 あ 一 ち 之 蠟 一 等 一 一

神 祇 理 之 人 也 村 之 是

下冬

謝諧端不之也人情
 各言葉如
 戶智人牙子

琴峯

○春秋堂藏版書目

草書禮部韻	<small>唐高宗御書 烏石山人摹</small>	六冊	諸國海濱道中記	<small>高乃中乃乃 而金成八事係 家曰光與乃</small>	一冊
漢隸分韻	<small>平上去入引 隸字之書</small>	五冊	新板分韻	<small>大槩一分冊乃 さい一三入 五華子卷</small>	一枚摺
唐詩聯選	<small>烏石山人撰 唐世名家聯</small>	二冊	懷玉齋初記	<small>懷中中</small>	一冊
職原鈔交流	<small>禁中御式 官位相當</small>	二冊	碁傳記	<small>近代上子 石之書藝</small>	二冊
學山錄	<small>蘭林先生著 近刻</small>	六冊	江戸姓來中江尾		一冊
醉翁帖	<small>廣濟先生 行書名刻</small>	一冊	侘語四書	<small>回文俳語 各古人筆蹟</small>	三冊

江都書林

日本橋通南三町目

吉文字屋次郎兵衛板行



纒乃紡

多縁

アキ

花

今



花野原

本書序文、稲津徳空、
芭蕉ノ門人ニシテ享保二
年刊「烏糸欄」ノ著アリ

本書下巻十六葉以後
シバク句作アル、不角ハ
其角ノ門人ナリ

依テ不書ノ刊年カ
享保ヲ下テナルコトヲ
考ヘ得ベシ

書中象ノ挿画アリ、
享保十四年象ノ渡来
ヨリ影響著ク受ケタルモノ
ナルヤハ尚ホ考フベシ

本書中
宗匠古筆ハ貴重
ナルモノト信ズ

政隨、大日本人名辭表、
政隨重次ハ時信師ニトアリ

享保十八年四月廿三日歿七十一才

大日本人名辭表ニ
立羽不角、江戸俳人岡村不トノ門人ニ
元禄中法橋、享保中法眼、宝曆ニ才
六月六十二才ニテ歿ストアリ、併コレテハ
元禄末年ニ才十二才位ハ考ヘナリ



